

# JOINT STAFF PRESS RELEASE

<http://www.mod.go.jp/js/>

## 平成26年度自衛隊の災害派遣及び 不発弾等処理実績について



27.6.4  
統合幕僚監部

# 1 災害派遣

## (1) 全般

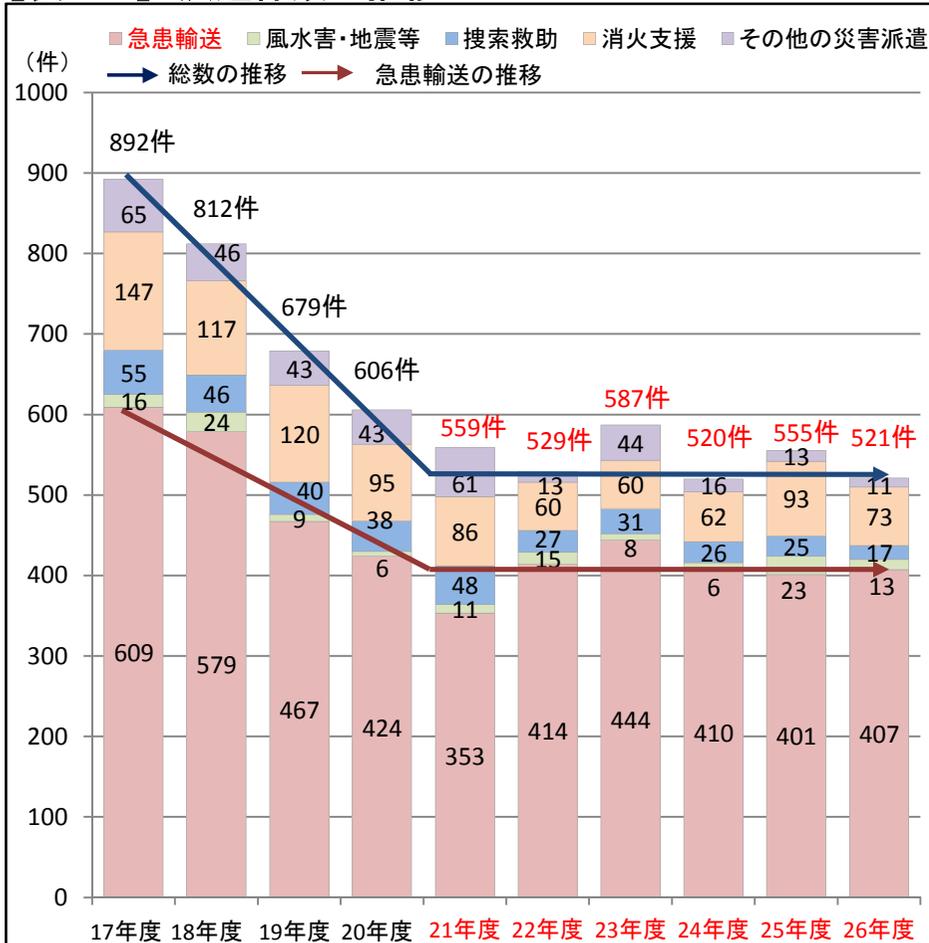
■ 26年度派遣件数：521件

- ドクターヘリの導入促進(※1)に伴い、自衛隊による急患輸送件数が減少し(※2)、派遣件数全体が減少したものの、21年度以降は年間500件台で推移
- 過去10年間、急患輸送が最多であり、派遣件数全体の約6割～8割を占め、26年度は全体の約78%
- 派遣件数の内訳は、概ね一定の割合で推移(風水害・地震等は1～4%)

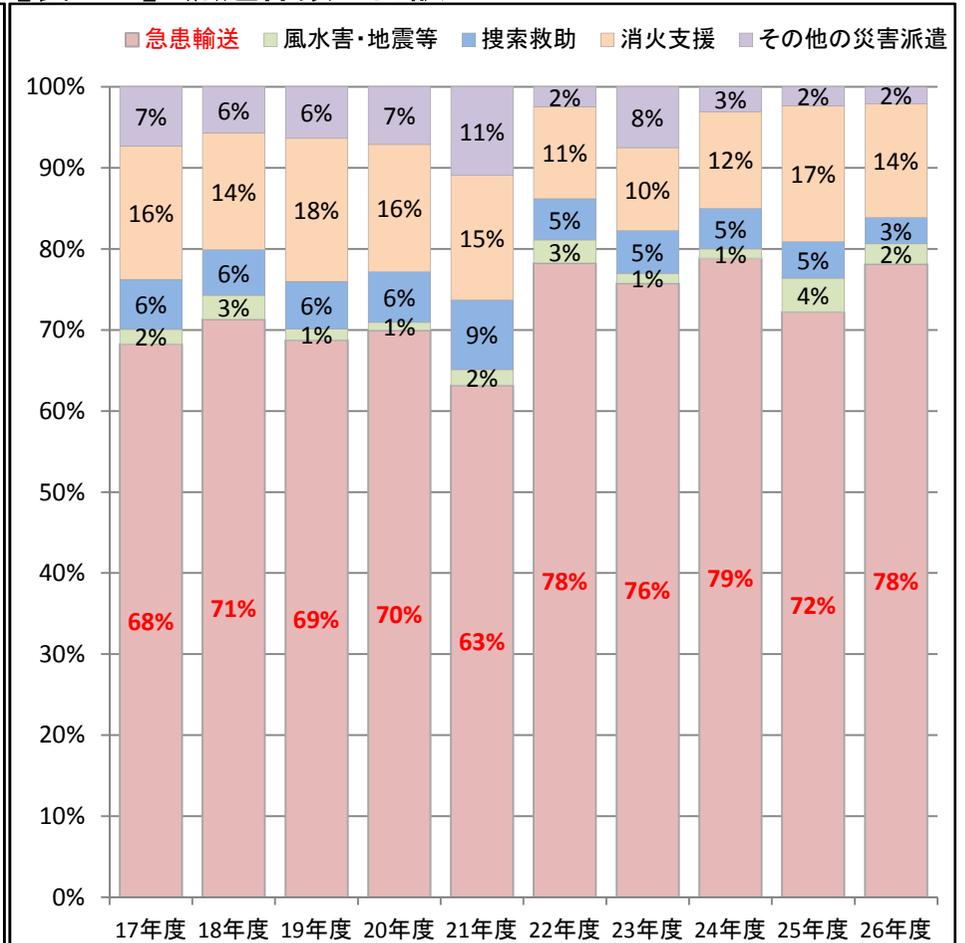
※1 出典：厚生労働省ホームページ(<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r985200000335ux-att/2r9852000003360r.pdf>)

※2 別紙第1参照

【表1-1】 派遣件数の推移



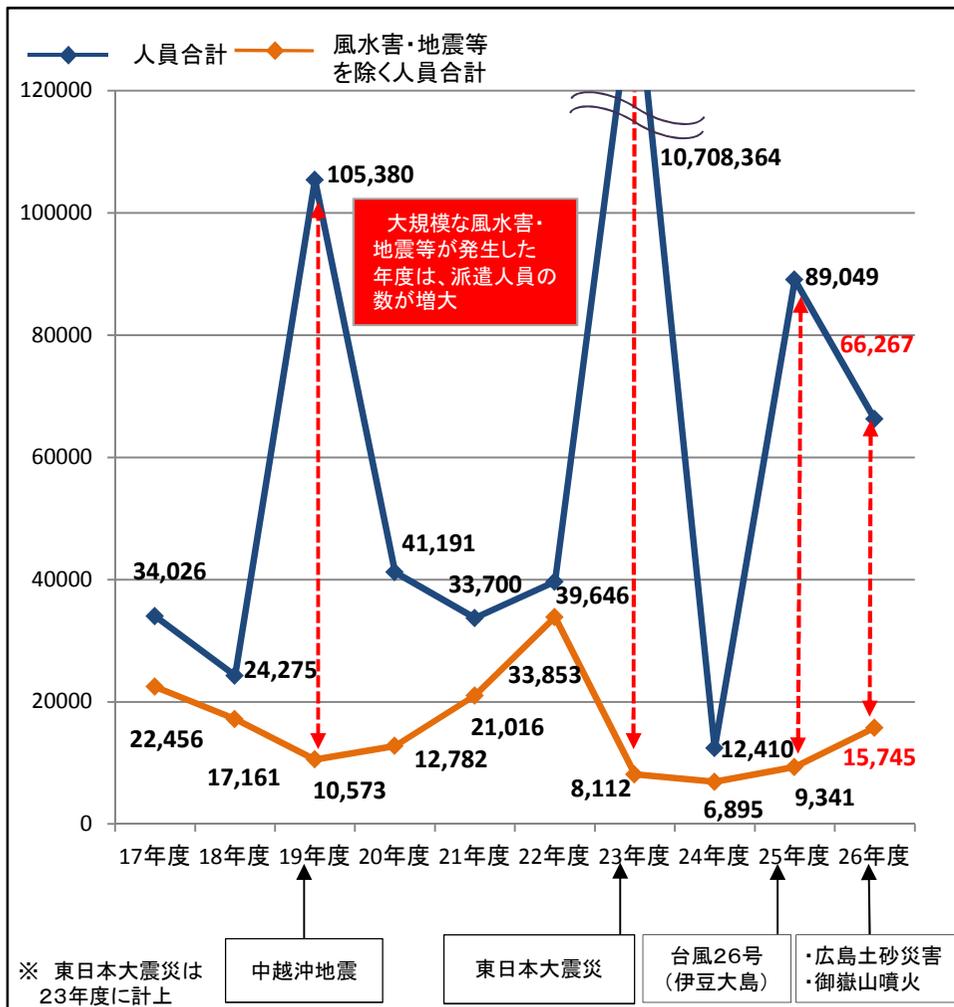
【表1-2】 派遣件数の内訳



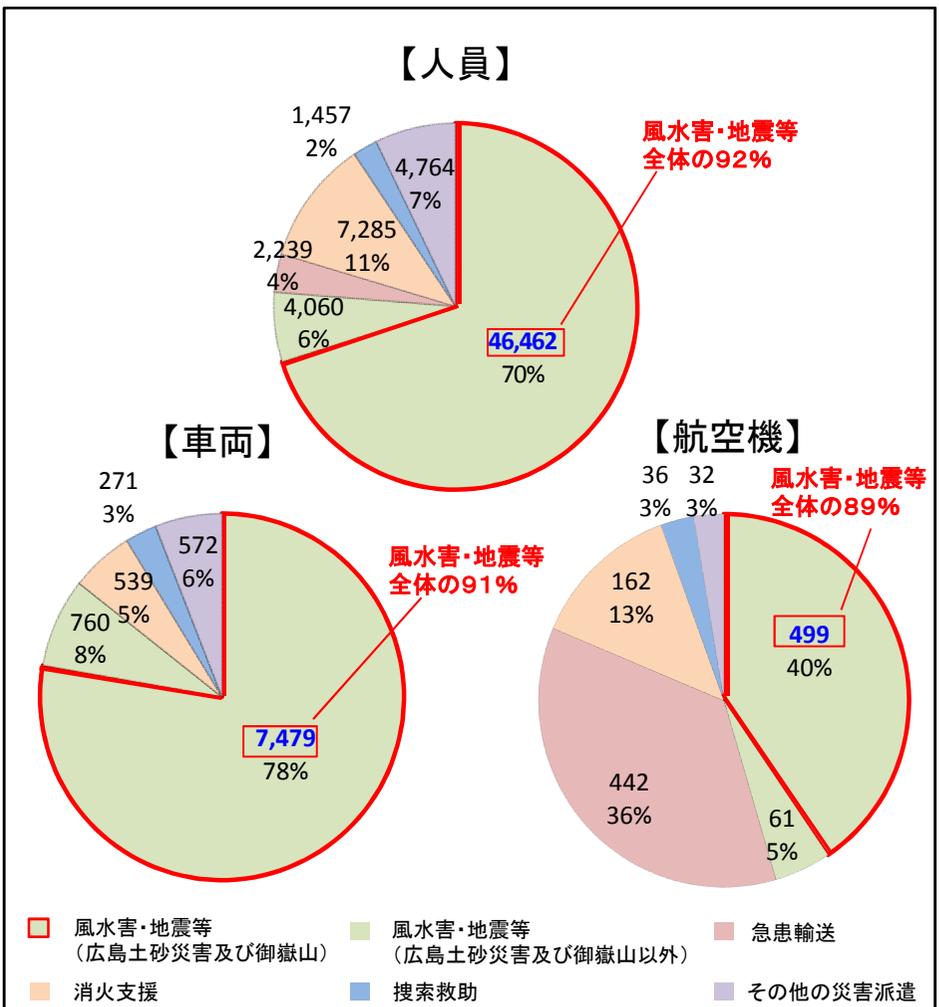
■ 26年度派遣人員：66,267人

- 過去10年間、風水害・地震等を除く派遣人員は概ね一定である一方、大規模な風水害・地震等が発生した年度は派遣人員数が著しく増大する傾向にあり、26年度は全体の7割強
- 中でも、広島県広島市における人命救助及び御嶽山における噴火に係る災害派遣の占める割合が大(9割強)

【表1-3】 派遣人数の推移



【表1-4】 26年度の災害派遣の内訳



(2) 細部実績等

風水害・地震等

【表1-5】 26年度の風水害・地震等の大規模災害

件名	時期	活動地域	派遣部隊	規模(延べ)	活動内容
広島県広島市における人命救助に係る災害派遣	8/20 ～ 9/11	広島県広島市	陸自: 第13旅団(主力部隊) 第3師団 中部方面隊直轄部隊 等 海自: 呉造修補給所	・ 人員: 23,451人 ・ 車両: 4,835両 ・ 航空機: 205機	・ 人命救助 ・ 行方不明者捜索 ・ 入浴支援
<参考> 台風26号に係る災害派遣 (伊豆大島)	平成25年 10/16～11/8	東京都大島町	陸自: 東部方面隊、東北方面隊、中央即応 集団 等 海自: 横須賀地方隊 等 空自: 航空支援集団 等	・ 人員: 46,832人 (陸自のみ) ・ 車両: 4,527両 ・ 航空機: 335機	・ 行方不明者捜索 ・ 患者空輸 ・ 物資輸送支援
御嶽山における噴火に係る災害派遣	9/27 ～ 10/16	長野県木曾郡 王滝村及び木曾町	陸自: 第12旅団(主力部隊) 東部方面隊直轄部隊 中央即応集団 等 空自: 航空救難団 偵察航空隊 等	・ 人員: 23,011人 ・ 車両: 2,644両 ・ 航空機: 294機	・ 人命救助 ・ 心肺停止者の搬送 ・ 行方不明者捜索 ・ 関係機関職員の輸送 ・ 航空偵察
<参考> 雲仙普賢岳の噴火に係る災害 派遣	平成3年6/5～ 平成7年12/16	長崎県島原市	陸自: 第4師団、西部方面隊直轄部隊、東 部方面隊直轄部隊、第1ヘリコプター 団 等	・ 人員: 207,225人 ・ 車両: 67,847両 ・ 航空機: 5,999機	・ 人命救助 ・ 行方不明者捜索 ・ 道路啓開

風水害・地震(火山を含む。)に対する人員、車両及び航空機の派遣は、一般的に大規模  
(広島県広島市における人命救助及び御嶽山における噴火に係る災害派遣のほか、伊豆大島における台風26号及び  
雲仙普賢岳の噴火に係る災害派遣も、同様に大規模)

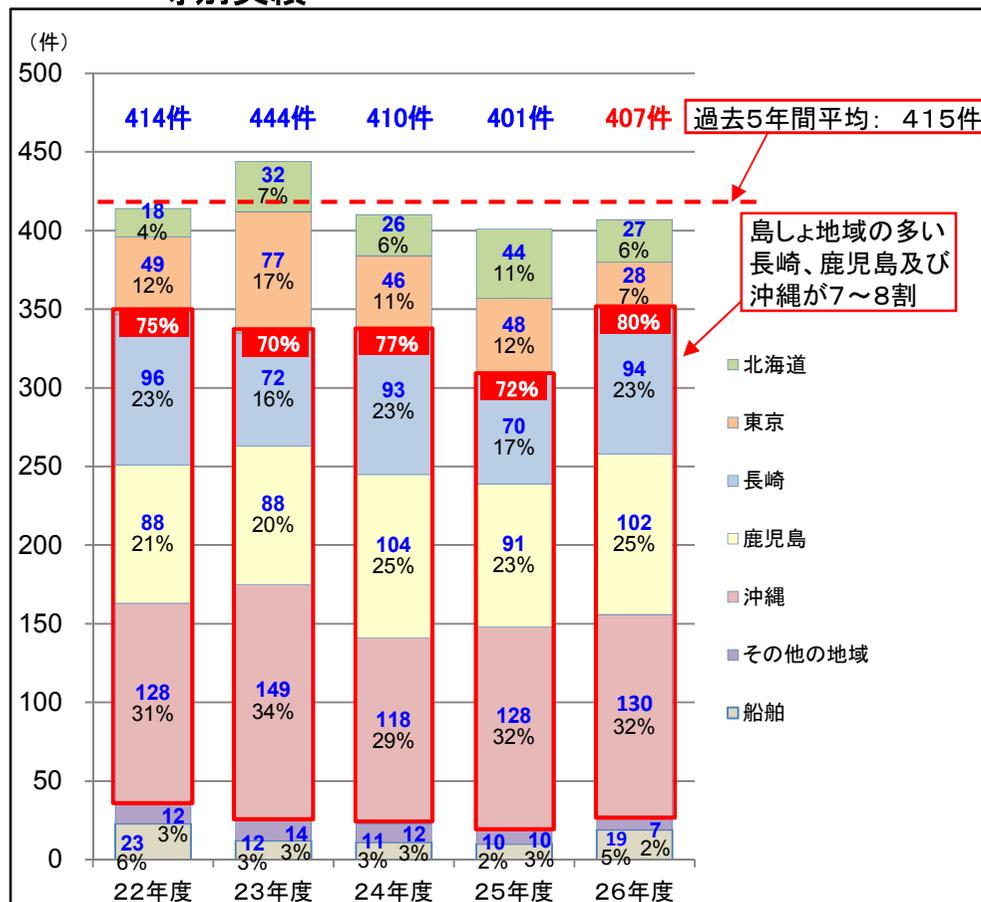
別紙第2「広島県広島市における人命救助に係る災害派遣」  
別紙第3「御嶽山における噴火に係る災害派遣」

## 急患輸送

■ 26年度総件数：407件

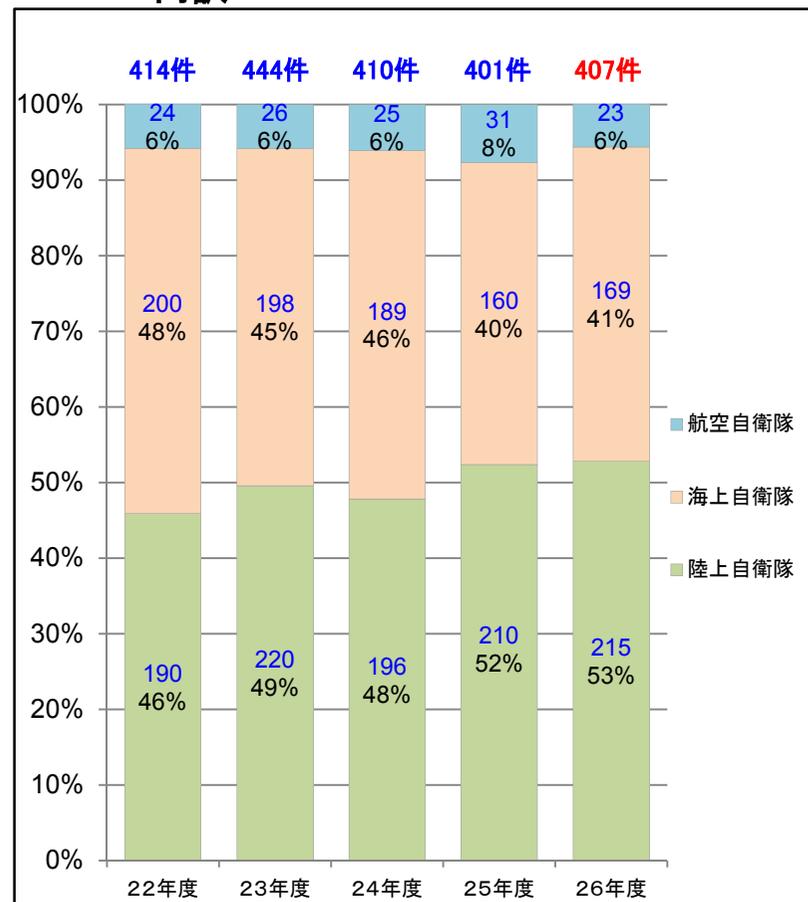
前年度比6件増、過去5年間の平均並みであり、**大きな件数の増減なし**

【表1-6】 過去5年間の急患輸送の総件数及び要請都道府県等別実績



過去5年間いずれも、**島しょ地域の多い県**(長崎、鹿児島及び沖縄)からの要請が7~8割を占める傾向

【表1-7】 26年度の急患輸送の陸海空自衛隊別内訳



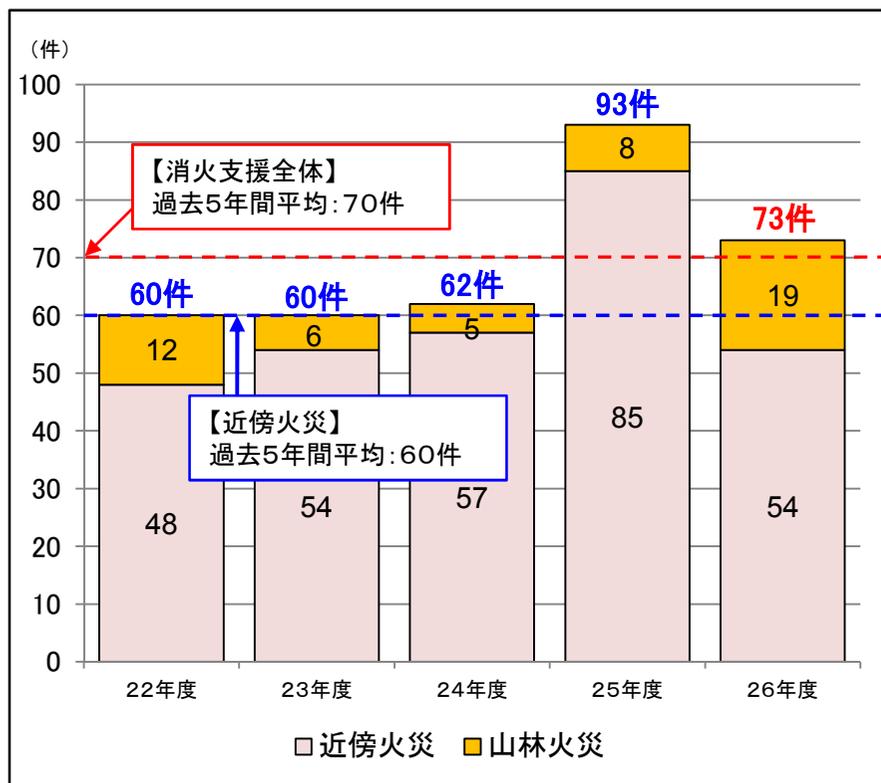
23年度以降、**陸上自衛隊**の占める割合が**最多**(約半分)

## 消火支援

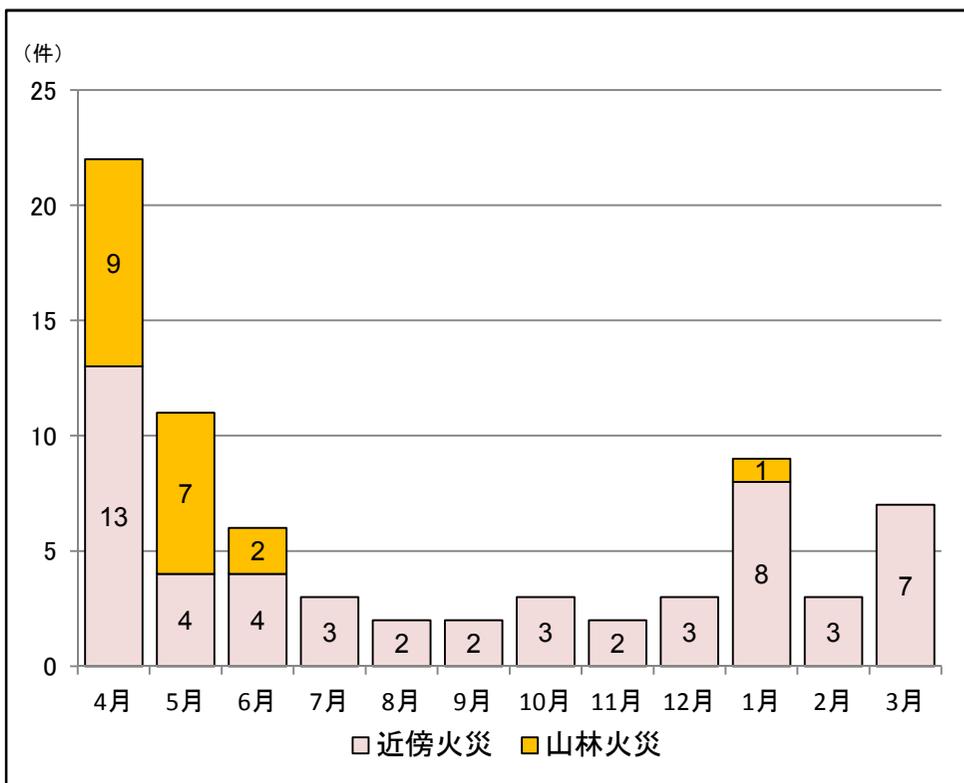
### ■ 全般

26年度の総件数は73件であり、前年度比20件減であるものの、**過去5年間の平均よりも多く**、依然消火支援のニーズは高

【表1-8】 過去5年間の消火支援の年度別実績



【表1-9】 26年度の消火支援の月別実績



- 26年度の近傍火災件数は減少したものの、過去5年間の平均並み(近傍火災平均:60回)
- 26年度の山林火災件数は、前年度比11件増

- **近傍火災は冬季から春季に多い傾向**(1~4月:年間の57%)
- **山林火災は春季に集中**(4~6月:年間の95%)

## 搜索救助

- 陸上における搜索救助  
全て北海道において生起
- 海上における搜索救助  
第3管区海上保安本部(神奈川)からの要請が最多  
(全体の約38%)

## その他の災害派遣

- 鳥インフルエンザへの対応  
鳥インフルエンザに感染した鶏の殺処分、鶏舎の清掃・消毒等を実施
- 座礁船乗組員の救助  
救助機等により、座礁船の乗組員の救助に係る災害派遣を実施

【表1-10】 要請都道府県等別実績

要請都道府県等	件数	種類	派遣部隊
北海道	9	山岳遭難者搜索 行方不明者搜索	陸自： 第2師団 第11旅団 第1特科団
海上保安庁	8	遭難船舶搜索 行方不明者搜索	海自： 第1航空群 第2航空群 第4航空群 第5航空群 空自： 第1輸送航空隊

【表1-12】 鳥インフルエンザへの対応実績

時期	場所	件名	派遣部隊(全て陸自)
4月	熊本県	熊本県球磨郡多良木町及び相良村において発生した鳥インフルエンザへの対応に係る災害派遣(約11万2千羽)	第8師団
1月	岡山県	岡山県笠岡市において発生した鳥インフルエンザへの対応に係る災害派遣(約20万羽)	第13旅団
1月	佐賀県	佐賀県西松浦郡有田町における鳥インフルエンザへの対応に係る災害派遣(約7万3千羽)	第4師団

【表1-11】 要請者別実績(海上保安庁)

要請者	件数
第1管区海上保安本部長(北海道)	1
第3管区海上保安本部長(神奈川)	3
第4管区海上保安本部長(愛知)	2
第10管区海上保安本部長(鹿児島)	1
第11管区海上保安本部長(沖縄)	1

【表1-13】 座礁船乗組員の救助実績

時期	場所	件名	派遣部隊
9月	東京都	東京都南鳥島沖における座礁船船員の輸送等に係る災害派遣 (乗員5名(日本人2名、インドネシア人3名))	海自： 第31航空群
12月	山形県	山形県酒田市の海岸付近における座礁船船員の救助に係る災害派遣 (乗員18名(韓国人1名、ミャンマー人17名))	空自： 秋田救難隊 新潟救難隊
3月	石川県	石川県能登半島沖における貨物船乗組員の救助に係る災害派遣 (乗員14名(中国人8名、ベトナム人6名))	空自： 小松救難隊 新潟救難隊

## 2 不発弾等処理

### (1) 陸上において発見された不発弾その他の火薬類

■ 全国：処理件数 1,379件、処理重量 57.2トン

○ 記録のある昭和50年度以降、戦後の時間経過に伴い処理件数・処理重量ともに急激に減少

○ 平成に入った以降、処理件数は一定数を維持する傾向に、処理重量は漸減傾向に変化していることから、引き続き処理ニーズは存在

■ 沖縄：処理件数 625件、処理重量 16.9トン

○ 記録のある昭和50年度以降、沖縄県では処理件数・処理重量ともに漸減傾向

○ 全国の処理件数減少により、沖縄県の占める割合が大となる傾向

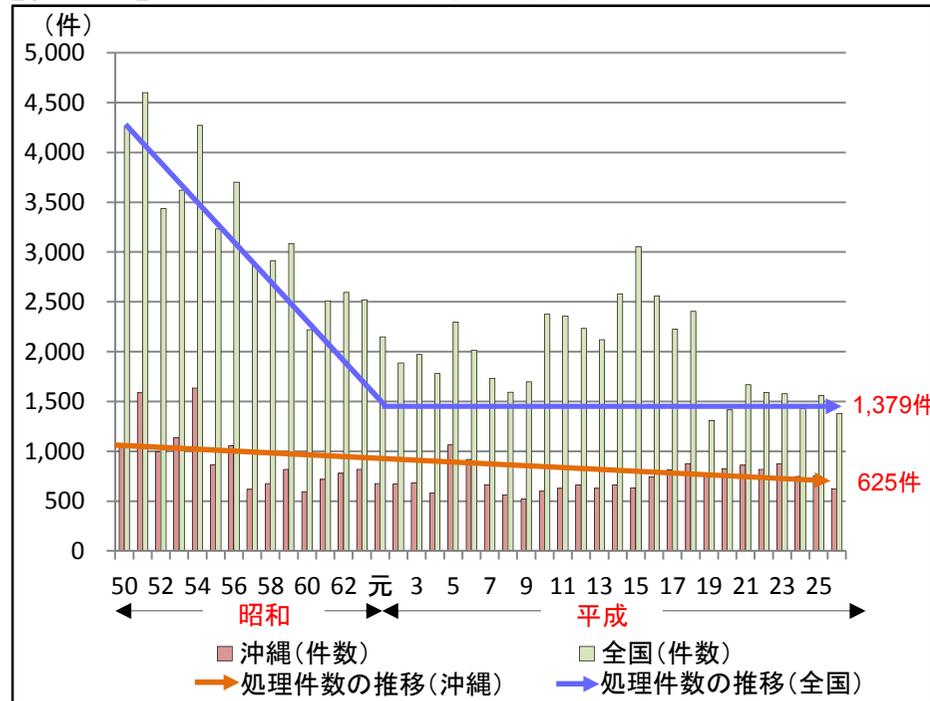
(処理件数の全国比は、昭和50年度の約24%に対し、26年度は約45%)

■ 顕著な処理事例

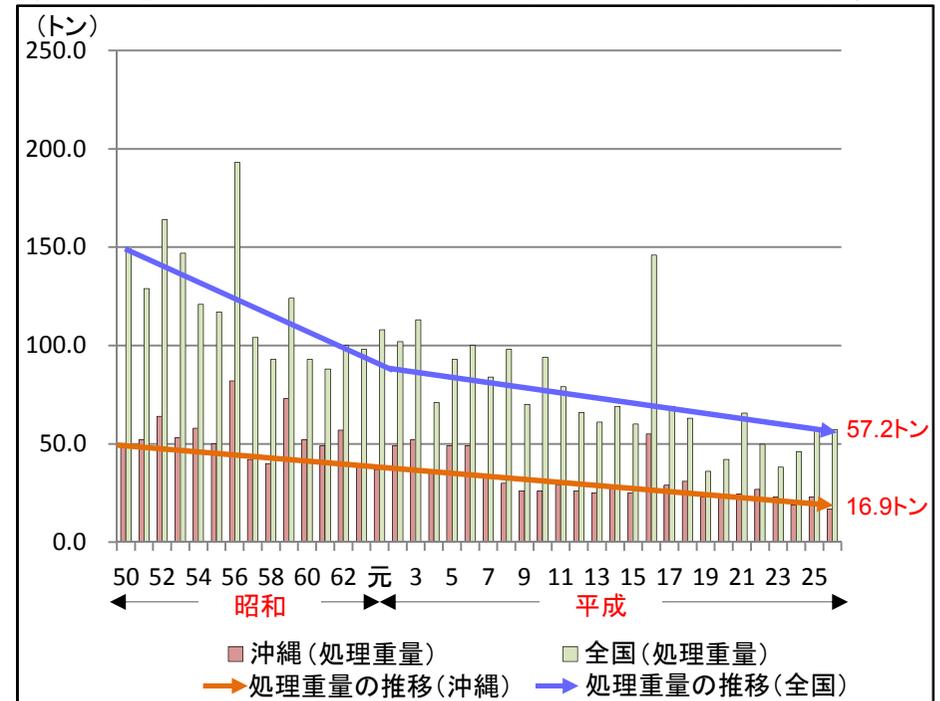
宮崎県宮崎市における避難対象者9,879人を伴う不発弾処理。第104不発弾処理隊により安全化の後、回収(26年5月21日)

【参考】大阪市浪速区の不発弾処理の避難対象：2,200人(27年5月9日)

【表2-1】 不発弾等処理件数の推移 ※ 昭和49年度以前の記録なし



【表2-2】 不発弾等処理重量の推移 ※ 昭和49年度以前の記録なし



## (2) 海上における機雷その他の爆発性の危険物

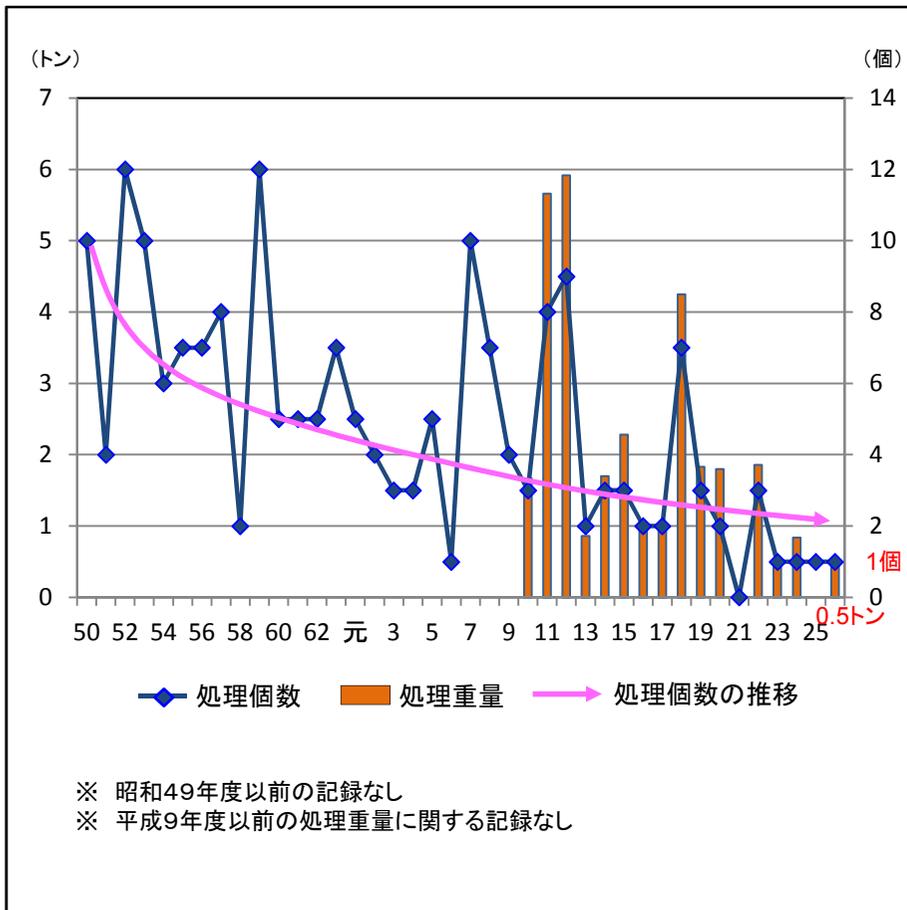
### ■ 機雷：処理個数1個、処理重量0.5トン

- 記録のある昭和50年度以降、戦後の時間経過に伴い処理個数・処理重量ともに減少傾向
- 23年度以降の処理個数は毎年1個であるものの、船舶航行への影響大であるため、引き続き処理ニーズは存在
- 26年度の処理実績：米国製機雷×1を第43掃海隊が処理(山口県小野田市埴生漁港：26年5月17日)

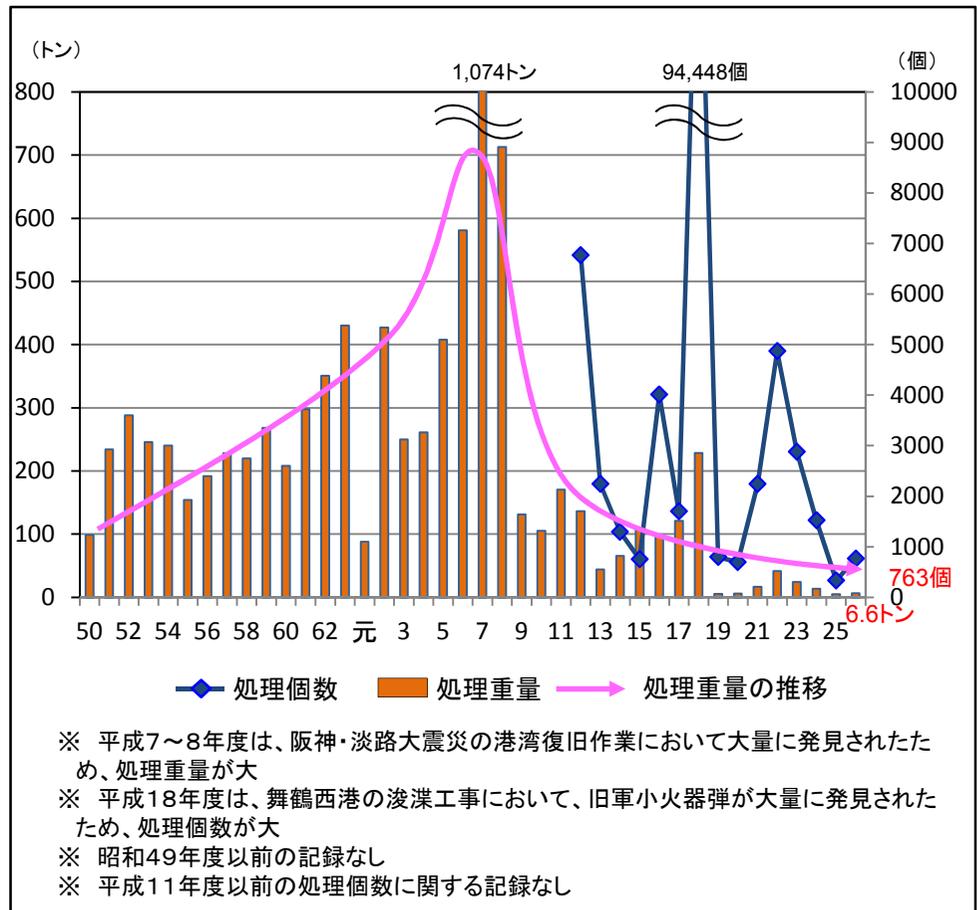
### ■ その他の爆発性危険物(魚雷、爆雷、爆弾、砲弾等)：処理個数763個、処理重量6.6トン

- 処理重量は、阪神・淡路大震災の港湾復旧作業のあった7年度をピークとして、9年度以降は低い水準で推移
- 港湾工事において大量に発見されるケース(18年度：舞鶴西港)もあるため、引き続き処理ニーズは存在

【表2-3】機雷の処理個数及び処理重量の推移

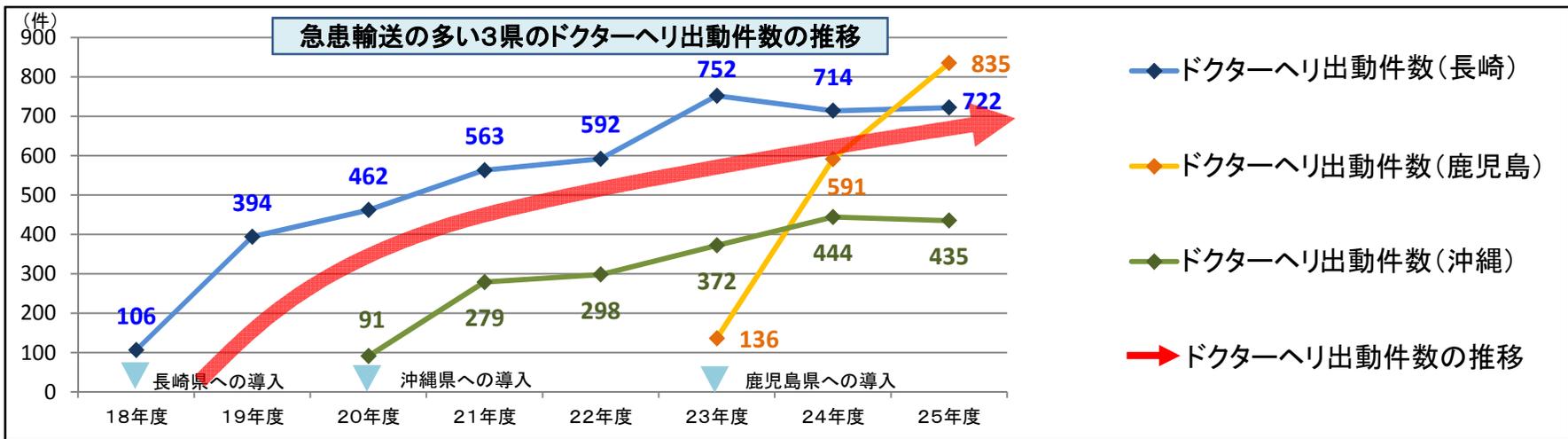
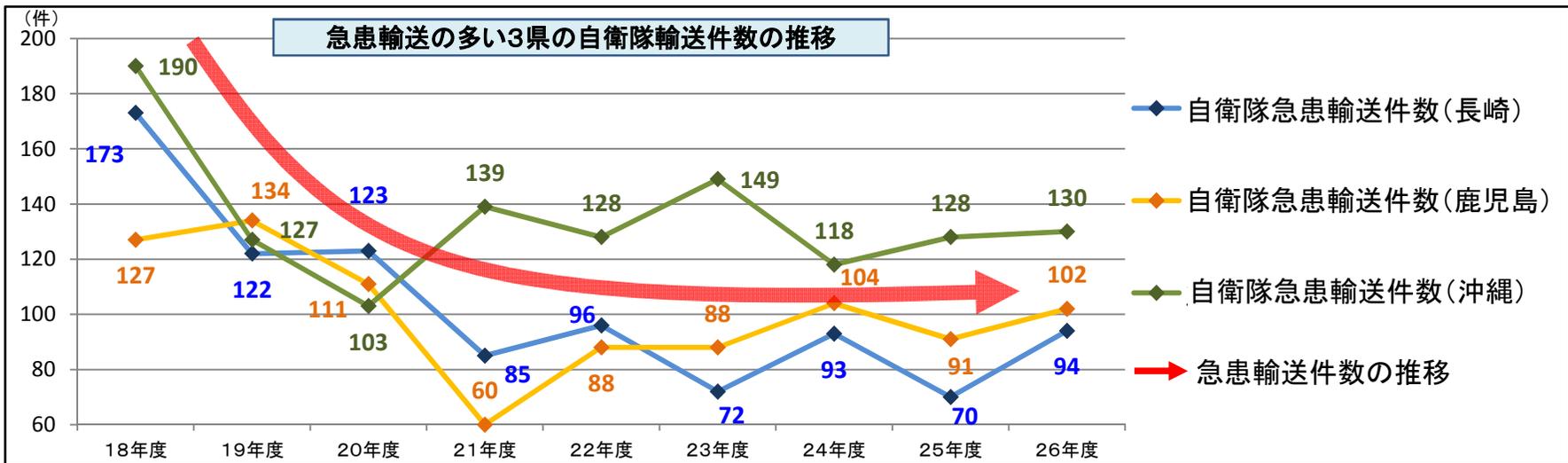


【表2-4】その他の爆発性危険物の処理個数及び処理重量の推移



# 自衛隊の急患輸送件数とドクターヘリの導入促進との関係

- 自衛隊の急患輸送件数は、ドクターヘリ導入促進に伴い減少
- 特に、島しょ地域が多く、急患輸送件数の大部分を占める長崎県、鹿児島県及び沖縄県へのドクターヘリ導入の影響が大



出典：長崎県ホームページ (<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/iryuo/iryoutaisei/doctor-heli/42848.html>)  
 鹿児島市立病院ホームページ (<http://www.kch.kagoshima.kagoshima.jp/doc-heli/faq.html>)  
 浦添総合病院ホームページ (<http://jin-aikai.com/urasoe-sogo/guide/doctorheli01.html>)

## 広島県広島市における人命救助に係る災害派遣

災害の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成26年8月20日未明、広島県広島市において土砂災害により多数の行方不明者が発生</li> <li>○ <b>死者74名</b>、全壊174戸、半壊187戸</li> </ul>	
自衛隊の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同日6時30分、広島県知事から第13旅団長に対し災害派遣要請</li> <li>○ 人命救助、行方不明者捜索及び入浴支援を実施</li> <li>○ 9月11日、災害派遣撤収要請</li> </ul>	
派遣部隊	陸自： 第13旅団(主力部隊)、第3師団、第4施設団、中部方面混成団、中部方面通信群、中部方面航空隊、中部方面後方支援隊、中部方面衛生隊 海自： 呉造修補給所	
本災害派遣の特性	状況に応じた捜索救助活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 断続的な降雨により、土砂災害が再度発生する可能性もある中、<b>昼夜を通じ24時間体制による捜索救助活動を継続</b></li> <li>○ 捜索救助に伴う<b>重機によるがれきの撤去や岩石の掘削</b>を実施</li> <li>○ 広範囲の一斉捜索時には、1,400人の隊員を集中的に同時投入</li> </ul>
	生活支援	被災された方のニーズに応じ、2箇所に入浴支援を実施

活動実績	
行方不明者発見	24名
入浴支援	1,178名



# 広島県広島市における人命救助に係る災害派遣



【人命救助】



【人命救助のための道路啓開】



【行方不明者捜索】



【入浴支援】

## 御嶽山における噴火に係る災害派遣

災害の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成26年9月27日の御嶽山噴火により、登山者等が被災</li> <li>○ <b>死者57名、行方不明6名</b>（26年11月現在）</li> </ul>	
自衛隊の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同日14時31分、長野県知事から第12旅団隷下の第13普通科連隊長に災害派遣要請</li> <li>○ 人命救助、心肺停止者の搬送、関係機関職員の輸送及び航空偵察を実施</li> <li>○ 10月16日、災害派遣撤収要請</li> </ul>	
派遣部隊	<p>陸自： 第12旅団（主力部隊）、第1師団、東部方面混成団、東部方面通信群、東部方面航空隊、東部方面後方支援隊、東部方面衛生隊、東部方面総監部付隊、第1ヘリコプター団、中央特殊武器防護隊、富士教導団、東部方面警務隊、関東補給処</p> <p>空自： 航空救難団、偵察航空隊、作戦システム運用隊</p>	
本災害派遣の特性	火山環境下の活動	火山性ガス、火山灰、噴火・噴石等への対応のため、 <b>あらゆる自衛隊装備品及び民生品を活用</b> （削岩機、地雷探知機、ガス検知器等）
	状況に応じた捜索救助活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>当初、登山道及び山小屋</b>を優先的に捜索</li> <li>○ <b>最終的には、御嶽山山頂域</b>に対して<b>面的な集中捜索</b>を実施</li> </ul>
	高標高環境下の活動	<b>ヘリコプターを活用</b> した人命救助、心肺停止者の搬送及び警察・消防を含む <b>捜索勢力の山頂付近への投入</b> （ <b>捜索時間の確保</b> ）

活動実績	
人命救助（航空機）	23名
人命救助（地上）	7名
心肺停止者の搬送	56名



# 御嶽山における噴火に係る災害派遣



【面による搜索】



【面による搜索の足跡】



【火山灰に膝まで埋まる隊員】



【降雪下での搜索】



【山頂付近での負傷者搬送】



【地上搬送】